

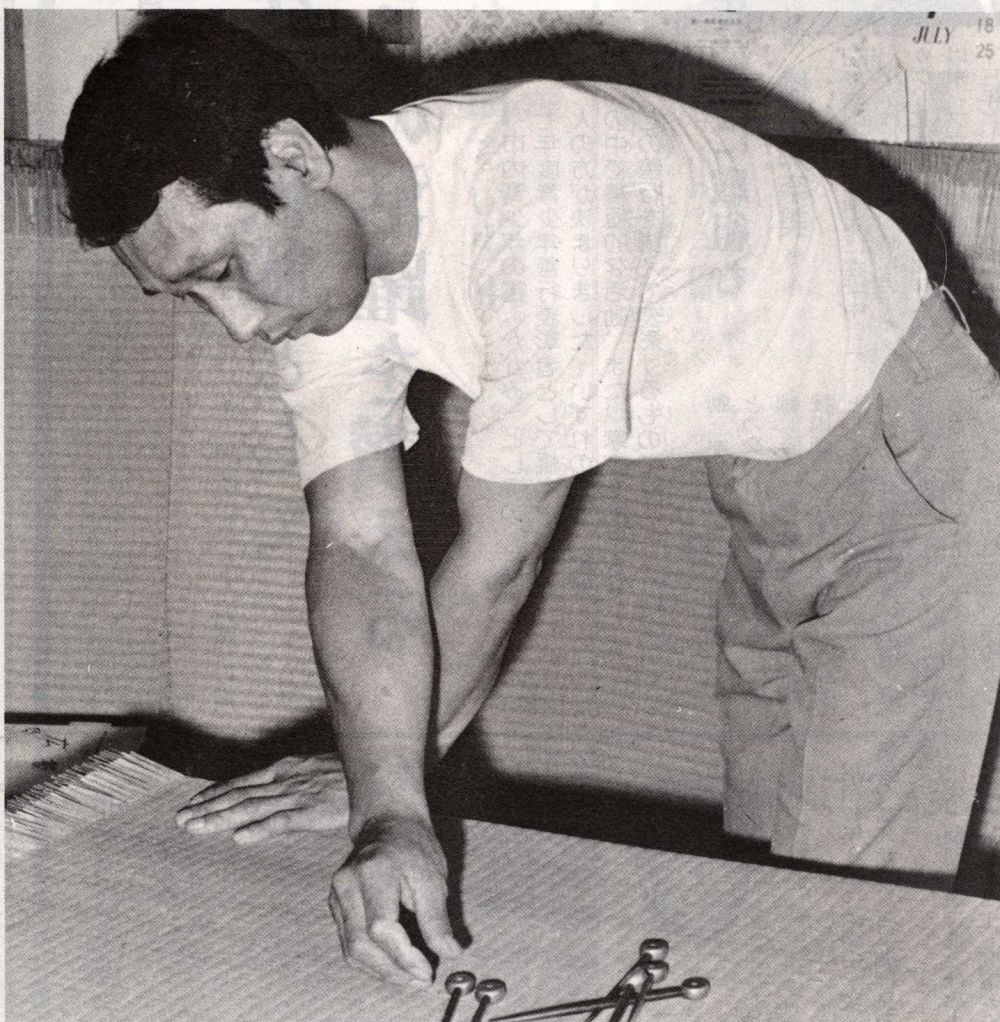


いもる

'82

8月

第293号



働く人

畳に吹き込む日本人の心

清水 陞さん

おろしたての畳部屋に入ると、あの青畳特有のイグサの香りがしてくる。手を触れ肌ざわりを感じると、日本人の心がくすぐられる。

父の後を継ぎ、畳作りに精をだす清水さん。

「庭先での畳の表替え、水を口にふくんで霧吹き、黙々と針を動かす。昔の畳職人の風情ですが、最近ほ他と同様機械化が進んでいます。それに住宅の建て方も様々で、規格通りの畳も作られなくなり、ほとんど注文ばかりです。」

4月～6月が表替え、7月～8月が新築住宅の畳作りが多いです。畳も人間と同じで、呼吸をしているんですよ。風通しを良くして可愛がってほしいですね。」

手作りでは1時間から1時間30分、機械では40分ほどで畳一枚が出来上がる。職人氣質も段々と風化していく。

〈清水商事勤務〉